



在日中国人の子どもの神経発達症の気づきに及ぼす 影響要因 : テーマティックアナリシス法を用いた保 護者の語りの分析

劉, 娟
山根, 隆宏

(Citation)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 19(1):71-82

(Issue Date)

2025-09-30

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100497711>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100497711>



在日中国人の子どもの神経発達症の気づきに及ぼす影響要因—テーマ
ティックアナリシス法を用いた保護者の語りの分析Factors Influencing the Awareness of Neurodevelopmental Disorders
in Children of Chinese residents in Japan: An Analysis of Parents'
Narratives Using the Thematic Analysis Method

劉 娟* 山根 隆宏**

Juan LIU* Takahiro YAMANE**

要約：在日外国人の親は子どもの神経発達症に気づきにくく、その背景には母国文化の影響があるとされている。これまでの神経発達症の気づきに関する先行研究では、国別ではなく在日外国人一括りで検討されることが多く、かつ親視点から検討されたものがみられなかった。そこで、本研究は在日外国人のうち、最も割合が高い中国人に焦点を当て、子どもの神経発達症の気づきにおいて、中国の文化が如何に影響しているのかを検討することを目的とした。本研究では、神経発達症児を育てる在日中国人の親15名を対象に半構造化面接を行なった。テーマティックアナリシスを用いて分析した結果、【早期発達状況】、【症状の現れ】、【親の原因帰属】、【親の心理状態】、【親の日本語能力】、【知識及び参照対象の有無】、【情報収集の難しさ】、【人の意見】、【中国の文化】という9つのテーマが得られた。中国の社会や文化に関する要因として、『男児の発達に関するステレオタイプ』、『祖父母の育児』、『核家族の育児』、『漢字による誤解』、『障害に関するステレオタイプ』が、親の子どもの神経発達症の気づきを遅らせていたことが明らかになった。一方で、『競争の激しい文化』は神経発達症の気づきを早める要因となり、『教師の意見への尊重』はその気づきを促進する場合もあれば、阻害する場合もあることが示唆された。

キーワード：子ども、在日中国人、神経発達症、障害の気づき、テーマティックアナリシス

1. 問題と目的

神経発達症群は、発達の早期や就学前に発現し、個人・社会・学業・職業上の機能に影響を及ぼす、発達上の障害や脳機能の違いを特徴とする(American Psychiatric Association, 2022)。神経発達症群には、知的発達症群、コミュニケーション症群、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)、注意欠如・多動症、限局性学習症、運動症群などが含まれている(American Psychiatric Association, 2022)。日本では、神経発達症がある子どもやその家族を支援するために、乳幼児健康診査の強化、発達スクリーニングツールの開発、教育・医療分野での専門家育成、保護者への啓発活動、地域支援体制の整備及び研究とデータの活用など、様々な取り組みが行われてきた(松山他, 2023)。しかし、それらの取り組みは神経発達症のある外国人の子どもに

適用されにくく、在日外国人の子どもの神経発達症の早期発見は依然として難しいことが指摘されている(鈴木他, 2018)。その背景には、言語面の困難による乳幼児健診の受診率が低いこと、子どもの発達の異常が環境または子ども自身の発達の問題の影響なのかを判断しにくいことなどの原因が挙げられている。その他にも、母国の文化の影響も原因として指摘されている(豊田市こども発達センター, 2008; 鈴木他, 2018)。

移民の障害観は母国の文化に影響されることが報告されている(Zhang & Chen, 2024)。文化は、社会集団の中で共有され、生活経験を通じた手段や実践によって形作られ、社会的に構築された実践、信念、期待、価値観からなる、動的で相互的かつ全体的なシステムとして定義されている(Matsumoto & Hwang, 2001)。母国文化の経験が日常生活のバ

* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程後期課程
** 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授

(2025年4月7日 受付)
(2025年8月25日 受理)

ターンを調整し、宗教的儀式、育児方法、教育、就業、病気の理解と治療に関する信念や機能に特有の指針を提供することが示されている (Harwood et al, 1999)。在日外国人の子どもの神経発達症に親がいかに関わってくるかは、その国の文化が大きく関わるものと考えられる。

これまで、在日外国人の子どもの神経発達症の気づきに関する研究は非常に少なかった。野澤他 (2023) は外国人の幼児の障害の早期発見に関して担当保育士の役割を示した。また、保健師による外国人の子どもの神経発達症の早期発見においては、南米よりもアジア系外国人が多い自治体の方が、活動上の困難を感じる割合が高い項目が多かったことが示されている (鈴木他, 2018)。これらの研究では在日外国人と一括りで研究がされており、国別の文化を踏まえた研究は非常に少ない。在日外国人の中には、中国人が最も多く (出入国在留管理庁, 2024)、今後も増えていく見込みがあるため、在日中国人に焦点を当てた検討が必要である。

中国人の子どもの神経発達症の気づきは中国の文化の影響を大きく受けると考えられる。中国の社会では、ASD 児は自己世界に閉じ込められ、人とのコミュニケーションはほぼ見られないという認識があるため、活発的で人とコミュニケーションをとる子どもの ASD が気づかれにくいことが報告されている (Sakai et al., 2019)。また、中国では、子どもは大人とのアイコンタクト及び人差し指でものを指す行動は礼儀正しくないとみなされるが、自閉スペクトラム症の評価を行うための半構造化観察検査である Autism Diagnostic Observation Schedule (ADOS) の中では、アイコンタクトや指差しのような行動の少なさが典型的な ASD の症状であると認められているため、中国人の ASD の診断がより難しくなる可能性がある (Zhang et al., 2006; Norbury & Sparks, 2013; Lord et al., 1999)。また、中国人の親は子どもの学習困難は自律の欠如、陰陽のバランスの乱れ、スピリチュアル的なものの影響であると考えられるため、親は学習障害がある子どもの学習困難が障害特性であることに気づきにくいことも述べられている (Tews & Merali, 2008)。他には、中国では学業能力が重視されており、暗記力の徹底的な習得を厳しく求めているため、親は ASD 児の機械的な記憶を障害特性として認識しにくいことも示唆されている (Wong et al., 2021)。以上より、中国人の子どもの神経発達症の気づきは中国の文化に影響されることが示されている。しかしながら、在日中国人の場合、親の神経発達症の気づきに中国文化がどのように影響するのかについては明らかにされていない。

また、親は子どもの成長を促し、発達の異常の早

期の気づきに非常に重要な役割を果たすことが指摘されている (Fitriani & Oktobriariyani, 2017)。これまでの在日外国人の子どもの神経発達症の気づきに関する研究では、保育士や保健師の視点からのものがみられるが、親視点から子どもの神経発達症の早期の気づきに関する検討はまだみられない。

そこで、本研究では在日中国人の神経発達症の気づきには、中国の文化がどのように影響しているのかを明らかにすることを目的とする。在日中国人の子どもの神経発達症の気づきの影響要因を解明することにより、障害の早期発見につながる知見を得られる意義があると考えられる。

2. 方法

(1) 調査対象及び手続き

神経発達症のある子どもを持つ在日中国人の親 15 名を対象とし、中国人である第一著者が Zoom を利用して中国語で半構造化面接を実施した。募集は在日神経発達症児を育てる中国人の Wechat 親グループに調査依頼をする形で行った。なお、自発的に研究協力を申し出てもらったため、調査協力者の多くが本調査に対して協力的であり、豊富な語りが得られたと言える。事前に調査対象者に簡単なオンラインアンケート調査を行った。次に面接の語りの内容を IC レコーダーで記録することを説明し、承諾を得てから半構造化面接を行った。調査時期は 2023 年 6 月～2023 年 7 月であった。面接時間は 60 分～90 分であった。

(2) 調査内容

オンライン調査では、子どもの人数、出生順位、性別、年齢、診断名、診断された年齢及び診断経過年数、知能指数、受けた知能検査・発達検査を訊ねた。また、親の年齢、日本語能力、親の来日年数及び育児に協力している家族成員を訊ねた。半構造化面接では、中国人の親に「子どもの発達の異常の気づきから療育に繋がるまでのプロセスを時間順に述べてください」というように口述を求めた。インタビューする際に、親が述べた内容について詳しい情報が必要な場合、追加で質問をした。

(3) 分析方法

本研究の研究協力者のうち、4 名の子どもの中国国内で神経発達症に気づかれていたため、本研究の分析から除かれ、最終的に 11 名が分析対象になった。11 名の対象児は全て日本で診断を受けていた。

在日中国人の子どもの神経発達症の気づきの影響要因をテーマティックアナリシスの (Thematic analysis: TA) の手順に沿って分析を行った (土屋, 2021)。分析手順は以下のように行った。①公認心

表 1. 研究協力者のプロフィール

協力者	親の年齢	子どもの年齢	子どもの性別	親の来日年数	診断名	診断時の年齢	育児協力者	親の日本語能力	子どもの日本語能力
No. 1	30代後半	5才	男	15年	ADHD, ASD	3才	配偶者	母語程度	母語程度
No. 2	20代後半	5才	女	6年	ASD	3才	配偶者	ほとんどわからない	日常生活で困らない
No. 3	50代前半	9才	男	11年	ADHD, ASD, SLD	3才	配偶者, 祖父母	ほとんどわからない	少しわかる
No. 4	40代前半	13才	男	17年	ADHD, ASD, ID	8才	母親のみ	自由に会話できる	少しわかる
No. 5	40代前半	12才	女	24年	ID, CD	6才	配偶者	日常生活で困らない	母語程度
No. 6	30代前半	9才	男	8年	ADHD, ASD, ID	2才	配偶者	自由に会話できる	母語程度
No. 7	30代後半	3才	女	4年	ASD, CD	2才	配偶者	自由に会話できる	自由に会話できる
No. 8	30代前半	4才	男	9年	ASD, ID	3才	配偶者, 祖父母	日常生活で困らない	日常生活で困らない
No. 9	30代後半	6才	男	3年	ASD, CD	3才	配偶者	日常生活で困らない	少しわかる
No. 10	30代後半	10才	男	17年	ASD, ID	8才	配偶者, 祖父母	自由に会話できる	日常生活で困らない
No. 11	30代前半	4才	男	20年	ASD	2才	配偶者, 祖父母	母語程度	ほとんどわからない

ASD: Autism Spectrum Disorder; ADHD: Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder; SLD: Specific Learning Disorder; ID: Intellectual Disability; CD: Communication Disorders

理師有資格、神経発達症児の支援経験がある中国の文化を熟知している第一著者がインタビューの内容を文字起こし、日本語への翻訳を行った後、逐語録を作成した。②子どもの神経発達症の気づきに関する語りをセグメントとして抜き出し、第一回のコーディングを行った。③日本人の心理学専攻大学院生1名がコーディングの妥当性を確認した。④潜在関連するコードをサブテーマとして集約した。⑤関連するサブテーマを集約してテーマを作成し、それらの本質を表す名称をつけた。⑥日本の文化を熟知している日本人の第二著者及び心理学専攻大学院生2名と共に、サブテーマおよびテーマが首尾一貫した意味を持ち、データ全体を反映しているかを吟味した。⑦代表的なデータを用いて結果を記述した。分析後、得られたテーマには子どもの神経発達症の気づきから診断告知までに関する影響要因として、促進するもの及び阻害するものがみられた¹。促進・阻害の分類にあたっては、面接中に親が促進・阻害について直接に述べた場合は、その意見を参考にした。言及がされていない場合は、著者が追加質問で確認した。最後に分析者全員が口述内容の前後を吟味して分類の妥当性を確認し、親の語りの分類に大きな相違がないことを確認した。

(4) 倫理的配慮

本研究は所属機関の研究倫理委員会による承認を得て実施した（受付番号：600）。調査対象者に事前に研究の目的、個人情報保護、研究方法及び公表の方法などについて説明し、承諾を得られた者のみに対して面接調査を行った。プライバシーに配慮し、調査対象者の語りは研究結果に差し障りのない程度に、調査対象者が特定されないようある程度の変更を加えた。本研究ではR（2024.12.1+563）、NVivo14を用いて分析を行った。

3. 結果

(1) 調査対象者の概要

親の年齢は20歳代～50歳代であり、来日年数は3年～24年であった。子どもの年齢は3歳～13歳であった。男の子は8名（72.7%）、女の子は3名（27.3%）であった。子どもの診断時年齢は2歳～8歳であった。子どもの診断名は10名（90.9%）がASD、4名（36.4%）がADHD、3名（27.3%）がコミュニケーション症群であった。知的障害が併存した子どもは5名（45.4%）であった。7名（63.6%）の家庭において、親のみで育児しているが、残りの4名（36.4%）は親と祖父母共同で育児を行っていた。日本語は母語程度である親2名（18.2%）、子ども3名（27.3%）；自由に会話できる親4名（36.4%）、子ども1名（9.0%）；日常生活で困らない親3名（27.3%）、子ども3名（27.3%）；少しわかる子ども3名（27.3%）；ほとんどわからない親2名（18.2%）、子ども1名（9.0%）であった（表1）。

乳幼児健康診査（以下、健診）の受診状況は、1歳6ヶ月健診受診が9名、1名は3歳時に来日し、1名は長年通院していたため、未受診だった。受診児の中では、5名は特に問題なし、2名は経過観察、2名は発達の遅れの疑いがあるという結果だった。3歳健診では、長年通院をしている子ども以外は全員が受診をしていた。受診の結果は、8名が発達の遅れを指摘され、2名が問題なしという結果であった。8名の子どもは保育園を利用していた。そのうち1名は診断後保育園、1名は療育園を利用し始めた。3名は保育園の保育者から言語や認知などの発達の遅れや偏りに関する指摘を受けていた。

(2) 神経発達症の気づきの影響要因

テーマティックアナリシスによる分析結果のう

ち、文中において、見分けやすくするため、テーマを【】、サブテーマを『』、コードを「」のラベルで表記する。

子どもの神経発達症の気づきを促進する要因を分析した結果、【早期発達状況】、【症状の現れ】、【親の原因帰属】、【親の心理状態】、【親の日本語能力】、【知識及び参照対象の有無】、【情報収集の難しさ】、【人の意見】、【中国の文化】というテーマが得られた(表2)。

【早期発達状況】では、子どもの早期の発達において特に問題がなく、または親が驚かされるほど優秀であるといった子どもの早期の発達状況が、子どもの神経発達症の気づきを遅らせていた内容で一貫していた。中には『発達の異常なし』、または同世代の子どもより『早期発達の優秀さ』、優れていたなどの語りが頻繁に出ており、そのような認識を持っていたため、神経発達症のある可能性が無視されたという趣旨が語られた。また、親が子どもの発達には何か異常を感じていたとしても、病院に行くべきかと迷っているうちに、『子どもの成長』がみられたため、その疑いが晴れたことが語られた。

【症状の現れ】では、現れた神経発達症の症状の複雑性、中核症状の有無、並びに他の病気の併存が子どもの神経発達症の気づきに影響を示した内容であった。「言語面以外に何も問題がなかった…(No.2)」のような語りから、在日中国人の親には、子どもの言語面でのみ問題が見られる場合、神経発達症の可能性を考えにくいことが示唆された。また、No.11は「自閉症の中核症状はうちの子には見られなかった」と語ったように、人と話をしていないなど中国人の認識にあるASDの症状が子どもに見られない場合、中国人の親は神経発達症と考えるにくくなることが示唆された。一方、「独り語を言ったり、歌ったり(No.6)」のような『中核症状の存在』や「独り言をずっと言っていた。そのうち、独り言もなくなった(No.6)」のような『退行現象』の現れは親に子どもの発達の異常の気づきを促していた。加えて、「夜全然寝なかったから、その時、週に何回も病院に行っていた、そのおかげで早く気づいたかも(No.5)」に述べられたように、子どもは他の病気を患っている場合、病院に通う機会が増え、神経発達症の気づきが早まったことも語られた。

【障害の原因帰属】では親が思う子どもの発達の異常の原因に関する内容で一貫していた。「…主人との喧嘩で、子どもの心に傷を…(No.2)」のように親はその原因を『心理面』に帰属したり、「子どもは2歳半まで祖父母と中国で暮らしてきたから、来日した後ずっと癩癩を起こして、環境変化の問題と思った(No.10)」、「外国人だから子どもに教えられる日本語も簡単な日本語しかない(No.10)」

のような語りではそれぞれ『環境変化の問題』、『言語環境の問題』に帰属したり、「…私はちゃんと教えていなかったから(No.4)」のように『教育の問題』に帰属していた。また、「…これは子どもの発達の特徴だと思っていた。発達がちょっとゆっくりだけど、あんまり深く考えなかった(No.11)」と述べられたように、子どもの発達の遅れを『子どもの特性』であると思っていた。また、「子どもの舌の神経の粘着が原因で、言葉が遅れていたと思って、手術を受けたら治ると思っていた(No.2)」と述べられたように、言語の遅れは『器質的な問題』に原因を帰属する親もみられた。他には、「健診の担当者は…全く心がこもっていないようだった(No.6)」と述べられたように、子どもの障害があるという診断の結果は雑に行われた検査が原因でありと親は思い、そのため親は診断の結果を無視し、子どもの障害の気づきが遅れてしまったという声もあった。

【親の心理状態】は親の精神状態や子どもの発達の異常に対する態度を示唆するテーマである。「育児活動に誰1人も手伝ってくれる人がいなかったから、鬱になって、子どもを見るとうんざりしていた(No.3)」のような語りから、母親は『精神的に不安定』で、子どもの世話をするのも難しい状況にあったため、子どもの発達に現れた異常に気づく余裕はなかったことが伺われた。また、「(私は)ものごとのいい面を見る性格だから…(No.6)」のような親の『悪い側面に注目しない』性格は障害の気づきを遅らせた要因として挙げられた。一方、「私はよくインターネット上で情報を検索する…(No.7)」、「…子どもの問題は絶対私の養育の問題ではない…何回も病院に行った(No.1)」のように積極的に発達に関する知識を取り入れ、異常の原因を探る態度は障害の気づきやすさにつながっていた。

【親の日本語能力】は親の日本語を用いたコミュニケーション能力及び日本の曖昧な表現や文脈理解についての理解力の高さという二つの内容で構成された。「…発達相談に行くべきだったが、私の日本語はとても下手でできなかった(No.4)」のような語りでは、『会話能力の無さ』により、在日中国人の親は子どもの発達の異常に気づいても、できることが限られており、障害だと分かるまで時間を要したことが示唆された。また、「疑いがあると言われたから、そこまでの心配はいらなかった。日本人に1%の疑いと言われても、可能性がかなり高いと思った方がいい(No.7)」のような語りから、『曖昧表現の理解の難しさ』が障害の気づきを遅らせる要因であることが示唆された。

【知識及び参照対象の有無】では親が有する発達や神経発達症に関する知識の有無、また、周囲に参照できる子どもの有無が障害の気づきへの影響を示

表 2. 在日中国人の子どもの発達障害の気づきの影響要因

テーマ	サブテーマ	障害/ 促進	記述数及び 言及率	発話例 (文尾の番号はInfoを示す。プライバシーを保護するため内容を損なわない範囲で変更している)
早期発達状況	早期発達異常なし		6 (40.0%)	乳幼児の時、座る、這い這い、立つ、アイコンタクトなど何の異常もなかったよ。健診の時も何の異常もなかった (No.1)
	早期発達の優秀さ	障害	7 (46.7%)	8ヶ月の時、パパママと呼び始めた (No.1)
	子どもの成長		5 (33.3%)	子どもが2歳半になってから喋り始めたので、もうこれで自閉症ではないだろうと思っていた (No.8)
症状の現れ	症状の単一性	障害	4 (26.7%)	言語面以外は何も問題がなかった。微細、粗大運動が強かった (No.2)
	中核症状なし		4 (26.7%)	自閉症の核症状はうちの子には見えなかったし、指さしもあったし、だから気づけなかった (No.11)
	中核症状の存在		6 (40.0%)	遊んでいる時も独り語を言ったり、歌ったりをしていた。パパは絶対おかしいと思って病院に連れていた (No.4)
	その他病気の存在	促進	3 (20.0%)	夜全然寝なかったから、その時週に何回にも病院に行っていたので、それのおかげで早く気づいたかも (No.5)
親の原因帰属	退行現象		5 (33.3%)	最初はコミュニケーションではなかったが、独り言をずっと言っていた。そのうち、独り言もなくなった (No.6)
	心理的な問題		2 (13.3%)	一歳の頃、子どもは喋り始めたが、その時主人との喧嘩がひどかったから子どもの心に傷を残した。喋れなくなった (No.2)。
	子どもの特性		7 (46.7%)	私はプロではないから、子どもの発達特徴だと思っていた。発達ちょっとゆっくりで、あんまり深く考えなかった (No.11)
	器質的な問題	障害	3 (20.0%)	子どもの舌の神経の粘着が原因で、言葉が遅れたと思って、手術を受けたら治ると思っていた (No.2)
	環境変化の問題		2 (13.3%)	子どもは2歳半まで祖父母と中国で暮らしてきたから、来日した後ずっと痼癪を起こして、環境変化の問題と思った (No.10)
	言語環境の問題		5 (33.3%)	外国人だから子どもに教えられる日本語も簡単な日本語しかない (No.10)
	適当な診断方法 教育的な問題		2 (13.3%) 5 (33.3%)	健診の時、担当者は手続きを踏むだけで、心をこもっていなかった (No.6) 子どもの問題ではなく、私はちゃんと教えていなかったから (No.4)
親の心理状態	親の心理的問題	障害	3 (20.0%)	育児活動に誰1人も手伝ってくれる人がいなかったので、鬱になって、子どもを見るときうんざりになっていた (No.3)
	悪い側面に 注目しない		4 (26.7%)	(私は)ものごとのいい面を見る性格だから、(子どもの発達に関する)いろんなサインを見落とした (No.6)
	原因を探ろうとする	促進	5 (33.3%)	自分の育児にとても自信がある。子どもの問題は絶対私の養育の問題ではないと思って、何回も病院に行った (No.1)
	積極的な情報収集		5 (33.3%)	よくネット上で情報を検索するから、発達の異常に早く気づいた (No.7)
親の日本語能力	会話能力の無さ	障害	3 (20.0%)	子ども2,3歳の時、発達の異常に気づいて、発達相談に行くべきだったが、日本語はとでも下手くそくて、きつかった (No.4)
	曖昧表現の 理解の難しさ		5 (33.3%)	「疑いがある」と言われたから、そこまでの心配はいらないと思った。日本人に1%の疑いと言われても、可能性がかなり高いと思った方がいい (No.7)
	発達に関する知識の不足 発達障害に関する 知識の不足	障害	5 (33.3%) 5 (33.3%)	健診で指摘されるまで、子どもはいつから話すのか全然知らなかった (No.8) その時、子どもはとても静かで、私は自閉症に関する知識がなかったので、自閉症なんか思ってもいなかった (No.6)
知識及び参照 対象の有無	同世代児の少なさ		4 (26.7%)	日本で育児しているから、接する子どもが少なく、子どもの発達を参照する存在がほぼなかった (No.3)
	孤独な育児		5 (33.3%)	先生が忙しくて、子どもの発達の遅れに関する話は一切なかった (No.3)
	参照対象の存在	促進	8 (53.3%)	うちの親戚の子は一歳半ですでに喋り始めていたが、うちの子がないからおかしいと思っていた (No.3)
情報収集の 難しさ	日本社会の仕組みの 理解不足	障害	2 (13.3%)	子どもに何か問題がある時、どこに行けばいいのかもわからない。だから、(子どもの異常を)見えなかったことにした (No.2)
	身辺情報の欠如		2 (13.3%)	私には中国人の友達しかいなかった。(中国人の)知り合いの子どもは全員定型発達児だから、参考にならなかった (No.4)
	時代の制約		3 (20.0%)	その年代では携帯電話で情報を検索することが難しかった (No.4)
	周囲の人の慰め		2 (13.3%)	(子どもが)大きくなったら自然によくなるよと慰められた (No.4)
	ネット情報の影響		4 (26.7%)	SNSでいろんな人の意見を聞きすぎて、何が正解なのかわからなくなった。
人の意見	専門職の見解	障害	4 (26.7%)	結局子どもの障害の気づきを遅らせた (No.8)
	パートナーの否認		2 (13.3%)	お医者さんは私が考えすぎると言っていた (No.4) 主人は完全にみてみないふりしていた。私は子どもを病院に連れて行こうとしていたが、それさえ拒否されていた (No.4)
	外国人への帰属		6 (40.0%)	健診のスタッフずっと慰めてくれて、外国人だからといって (No.8)
	祖父母の口出し		4 (26.7%)	あなたは子どもの時もっと遅れていたよ。あなたに比べて、○はずっと賢いよと親が言っていたから安心した (No.3)
中国の文化	男児の発達に関する ステレオタイプ		3 (20.0%)	男の子の発話は元々遅いからと皆言っていた (No.7)
	祖父母の育児		2 (13.3%)	祖父母は子どもを甘やかすから、発達の異常を気づけなかった (No.6)
	核家族の育児	障害	3 (20.0%)	中国では親戚は皆子どもに関わってくる。当然子どもが受ける言語刺激も多い。日本にいるから言語の発達が遅れた (No.10)
	漢字による誤解		2 (13.3%)	子どもの発達には凸凹があると書いてくれたが、”凸凹”と見せてくれた時、当たり前のことと思った (No.1)
	障害に関する ステレオタイプ		2 (13.3%)	私の意識の中の自閉症は「喋らない子」だから、うちの子は喋るので、自閉症と思わなかった (No.10)
	競争の激しい文化	促進	3 (20.0%)	子どもの勉強がよくできない時、私は非常に不安だった。中国人のママの間では競争非常に激しいだよ (No.10)
	教師の意見への尊重	進/阻	2 (13.3%)	先生は専門職なので、先生がそういったから(発達に異常があるかも)何か問題あるだろうなと思った (No.7)

した内容で一貫していた。「…子どもはいつから話すのかについて全然知らなかった (No.8)。」、「…自閉症に関する知識がなかったので、自閉症なんか思ってもいなかった (No.6)。」のような語りでは、親が持つ発達や神経発達症に関する知識の乏しさが気づきを遅らせることが示された。加えて、「日本で育児しているから、接する子どもが少なく、子どもの発達を参照する存在がほぼなかった」のような同世代の子どもの少なさや、「(保育園の) 先生が忙しくて、子どもの発達の遅れに関する話が一切なかった。」のような母親以外の視点からの子どもの状態に関するフィードバックの少なさが神経発達症の気づきの遅れに繋がっていたことが示唆された。一方、「うちの親戚の子は一歳半ですすでに喋り始めていたが、うちの子はないからおかしいと思っていた (No.3)。」のように、周囲には他の子どもがいて、発達を参照できる存在がいる場合に神経発達症の気づきが促されることも示唆された。

【情報収集の難しさ】では、日本の社会システムの理解の程度や、交流サークル及び時代の制約などの原因で情報収集が困難であった内容で一貫していた。「子どもに何か問題がある時、どこに行けばいいのかもわからない… (No.2)。」との語りにあるように、日本の医療機関や制度に不慣れなことから、神経発達症への気づきが遅れる結果となっていた。「私には中国人の友達しかいなかった。(中国人の) 知り合いの子どもは全員が定型発達児だから、参考にならなかった (No.4)。」といった発話例に見られるように、友人の国籍、人数及び周囲の神経発達症例の存在の影響が示された。さらに、「その年代では携帯電話で情報を検索することが難しかったから、調べたいことがあってもできなかった (No.4)。」のように、時代の制約で、情報収集の手段、情報の量及び質が神経発達症の気づきに影響することが示唆された。

【人の意見】では、親は子どもの発達に異常を気づいても、周りの人や専門家、育児経験者(自分の親)の意見に影響され、神経発達症の気づきの遅れに繋がっていることで一貫していた。「周囲の人は(子どもが) 大きくなったら自然によくなるよと慰めてくれる (No.4)。」といったように、周囲から親は慰められ、気づきが遅れることもみられた。また、子どもの発達の異常にすでに気づいていても、「お医者さんは私が考えすぎと言っていた (No.4)。」に述べたように、周囲から親の思い過ごしだとみなされる場合もあった。そのほか、「[あなたは子どもの時にもっと遅れていたよ。あの時のあなたに比べて、あなたの子どもはずっと賢い]と親が言っていたから安心した (No.3)。」のように、育児経験者(自分の親)の意見を信じて、安心した親もいた。また、「主

人は完全にみてみないふりしていた。私は子どもを病院に連れて行こうとしていたが、それさえ拒否された (No.4)。」のように、親が持つ子どもの発達の問題への態度の影響が示されていた。

【中国の文化】では、子どもの障害の気づきにおいて、中国の文化を表した社会共通認識、風習などの影響が含まれた。「男の子の発話は元々遅いからと皆言っていた (No.7)。」という語りからは、中国の文化で男の子の発達が遅れても異常だと思われない認識が神経発達症の気づきに影響していたことが示唆された。また、「中国では親戚は皆子どもに関わってくるから、当然子どもが受けられる言語刺激も多い。日本で子どもを育てているから言語の発達が遅れた (No.10)。」という語りや、「子どもが2歳前にずっと祖父母と中国で暮らしていたから、祖父母は子どもを甘やかすから、誰も発達の異常を気づけなかった (No.6)。」のような語りからは中国の育児の環境や育児形態の影響が示唆された。さらに、「私の意識の中の自閉症は「喋らない子」だから、うちの子は喋るので、自閉症だと思わなかった (No.10)。」のように、中国人が持つ ASD に対するステレオタイプが影響していた。一方、「先生が専門家だから、先生がそう(発達に異常があるかも) いったから、何か問題あるだろうと思った (No.7)。」のような教師の意見への尊敬、「子どもの勉強がよくできない時、私は非常に不安だった。中国人のママの間では競争が非常に激しい (No.10)。」のように、学習面の厳しさや親間の激しい競争が早期の気づきに結びつくことが示唆された。

4. 考察

本研究では、神経発達症児を育てる在日中国人の親を対象に子どもの神経発達症の気づきに関する半構造化面接を行い、その障害の気づきに影響を及ぼす要因を検討することを目的とした。TA による分析結果、9つのテーマが得られた。そのうち、子どもの【早期発達状況】、【親の心理状態】などの6つは、他の在日外国人や日本人の親にも共通にみられるテーマがあった。一方で、【親の日本語能力】、【情報収集の難しさ】は在日外国人に共通して見られるテーマ、さらに【中国の文化】は在日中国人に特有のテーマがみられた。ここでは、在日外国人に共通するテーマと在日中国人に特有のテーマについて考察を行う。

(1) 情報収集の困難及び親の日本語能力の影響

在日中国人と他の在日外国人では共通して、情報収集の困難及び親の日本語能力の不足が、子どもの神経発達症の気づきを妨げていることがわかった。この結果は、外国人の親の言語の壁及び情報収

集能力の関係で、神経発達症、特に ASD がある子どもの診断が在住国の子どもより遅れるという先行研究の知見を一部支持した (Lim et al., 2021; Wang & West, 2016)。また、この結果は海外に在住する外国人の親が言語能力及び政策の理解など文化の理解に関わる問題により、必要な情報を手に入れにくいという報告とも一致する (Khanlou et al., 2017)。加えて、海外に在住する多くの中国人の親は、中国のソーシャルメディア (例: Wechat, 小紅書, TikTok) から情報収集を行なっている (Wang et al., 2017)。しかし、ソーシャルメディアのみを通じて情報収集する場合、フィルターバブル²及びエコーチェンバー³現象が生じやすく、情報の多様性が失われ、過激化が助長されることが示されている (Pariser, 2011)。これらのことから、親が抱えている言語面及び情報収集面の困難が子どもの障害の気づきを阻害するといえる。この問題に対しては、外国人の親の日本語能力に配慮し、正確でかつ直接的な表現によって多様な情報を提供することが有効な対応方法であると指摘されており (藤川・田邊, 2021)、これらの支援は在日中国人にも適用できると考えられる。

(2) 障害や発達に関する知識の欠如及びステレオタイプによる影響

本研究において、神経発達症児を育てる在日中国人の家庭において、障害や発達に関する知識の欠如及びステレオタイプの存在が神経発達症の気づきを阻害していたことが分かった。中国人が持つ ASD の中核症状、知的障害の併存、予後に関する知識が欠如していることが明らかにされている (Yu et al., 2020)。その背後には、中国語の神経発達症に関する情報の発信が少ないことが原因の一つと考えられる。多くの中国人はテレビやインターネットから ASD に関する情報や知識を取り入れている (Yu et al., 2020; Wei et al., 2022)。しかし、テレビ、インターネットでは公共認識、介入機関の広告や政策・法律・規則、雇用サービスと年金に関する情報が最も多い。さらに、これらの情報はほぼ短く、商業団体がスポンサーとなっている公共福祉に関するものであり、ASD 啓発日や子どもの日など特定の日にのみに掲載される (Yu et al., 2020)。この環境下で、中国人が神経発達症に関する情報を得る機会が乏しいことが推測される。本研究においては、神経発達症に関する知識の不足によって、在日中国人の親が発達の遅れや偏りのサインを見落とし、障害以外の原因に誤って帰属することも見られた。

知識不足の結果として、中国人の ASD に関するステレオタイプによる影響も考えられる。例えば、ASD 児は喋らない子どもというステレオタイプが

挙げられる。このような見方は日本にも存在するが、中国の場合、ASD 児は話す能力があっても、自ら話さないことを選んでいとされ、それは内向的な性格に近いものとして理解される傾向がある。また、子どもには ASD の症状が見られても、家庭環境の変化や医療的な治療により、ASD は「脱帽」可能 (完治可能) と考えていた親が多くいることがわかった。Yu et al. (2020) は ASD をコミュニケーション障害、精神障害 (社交不安) であると誤解し、予防可能であり、早期のトラウマ的な経験により誘発されるものだと考えている中国人の親は少なくないことを指摘していた。そのため、子どもの発達に異常を気づいても、中国人の親は特に大きな心配が不必要だと考えているかもしれない。

中国の文化においては、男児の発達に関する独特なステレオタイプが存在している。先行研究では、中国人の親は子どもの言葉の発達が遅いことは将来同年代の子どもより賢くなる兆候と信じているため、子どもには言語の遅れが見られても、心配する必要がないと信じる傾向が見られる (Sun et al., 2013)。本研究では、中国人が持つ「貴人語遅」⁴、「男孩儿的發育比較慢」⁵ という発達に関する認識が、子どもの神経発達症の気づきを阻害することが分かった。この結果は、中国人が持つ男児の発達に関するステレオタイプが子どもの障害の気づきを遅らせ、療育へのアクセスを阻害するという先行研究を支持するものである (Guo et al., 2025)。これらのことから、神経発達症や発達に関する知識の普及は在日中国人の親の神経発達症の気づきに非常に重要であると考えられる。在日神経発達症児を育てる南米出身保護者には、支援者及び通訳者の専門性による正確な情報提供が重要な支援であると指摘されており (藤川・田邊, 2021)、その知見は在日中国人にも適用できるだろう。また、在日中国人の発達や神経発達症に関する理解の啓発や相談を行う際には、中国人が有しやすいステレオタイプを踏まえて考慮すべきであろう。

(3) 育児形態による神経発達症の気づきへの影響

本研究では、子どもの神経発達症の気づきは祖父母の育児または関与により遅らせることがわかった。在日中国人の家庭では、「夫婦共働きの家庭」、「国際結婚家庭」では「家族・親族による共同育児」から「夫婦中心型育児」への変化が見られるが、「妻が専業主婦の家庭」では、妻が帰国したり、家族・親族が来日するなどの形で「家族・親族による共同育児」が維持されていることが示唆されている (鈴木他, 2019)。中国人の祖父母の育児が過保護や甘やかすことになりやすいため、子どもの性格に問題が多くなることが指摘されている (Jiang &

Bi, 2020)。同様に, Sun & Jiang(2017)は祖父母の育児は父母の育児に比べ, 子どもの向社会的行動が低く, 親への不安型の愛着 (Anxious Preoccupied Attachment) が高い傾向があると指摘している。そのため, 子どもに問題行動が見られていても, 厳しく咎められず, 祖父母の甘やかしの結果だと原因帰属することで, 神経発達症のサインが見落としされた可能性がある。また, 祖父母の代では, 教育を受けていた者は限られており, 神経発達症に関する知識を持つ者が非常に少ない。さらに, 時代の変遷に伴い, 前世代の子どもの現代の子どもの発達には違いが見られる (郷間他, 2022)。しかし, 中国人の祖父母世代は自身の育児経験を現代の子どものまま適用するため, 子どもの神経発達症の気づきを遅らせる可能性がある。

(4) 曖昧な表現及び漢字による誤解の影響

本研究においては, 在日中国人の親は「(神経発達症の) 可能性がある」, 「発達の凸凹」などの日本語表現を正確に理解できないため, 子どもの神経発達症の気づきが遅れたことがわかった。日本語と中国語において, 同じ漢字によって表記される漢字熟語のことを, 同形語という (林, 2002a)。文化庁によると, 日中両言語間の意味の共有性に基づいて, 同形語を3種類に分けられる。両言語で意味がほぼ同じ同義語, 意味の一部を共有する類義語及び意味が全く異なる異義語である。中国語を第一言語とする日本語学習者は, 類義語について中国語の知識をそのまま日本語に転用し, 誤用が生じる場合が少なくないことが指摘されている (小森他, 2008)。「可能性がある」という表現は, 日本語では「確定ではないが, 十分に注意すべき状態」を示す。しかし, 中国語の「可能 (kě néng)」は確率が低く, 親はその可能性を深刻に考えない傾向があるかもしれない。また, 日本語では, 「発達到凸凹がある」は神経発達症の特性をやわらかく表現する言い方として使われることが多く, 「苦手な部分もあるが, 得意な部分もある」というニュアンスを含み, ポジティブに受け取られることもある。一方, 中国語で「凸凹 (凹凸, āo tū)」という言葉は, 主に物理的な形状を指し, 心理的・発達的な特性として使われることは少ない。中国人の親は, 「凸凹がある」程度であれば「それは障害である」と判断しにくく, 「努力すれば克服できる」と考えられがちになる。このような比喩では, 中国人の親に子どもの発達の問題の深刻さを正確に伝えることができない可能性が高いといえる。

加えて, 日本語は曖昧な言語表現が多く, 角が立たないように言葉を選び, 言い切ることを避ける特徴がある。中国語の簡潔且つ率直な表現法と違い,

主体の意志を相手に押し付けず, 相手に安心して受け入れてもらえるように語気を和らげる表現法である (周・宋, 2012)。「可能性／恐れがある」, 「発達到凸凹がある」などの遠回しの言い方は, 中国人の親には理解しにくい可能性が高いと考えられる。以上より, 在日中国人の親に子どもの発達に関する情報を伝える際に, より直接的な言い方及び同形語の使用には慎重であるべきだと考えられる。

(5) 激しい競争社会の影響

学習面において, 他の子どもの負けないように中国人の親は子どもの学力に力を入れることで, 子どもの神経発達症の気づきが早まることがわかった。中国には“望子成龍, 望女成鳳⁶⁾”という価値観があり, 中国人の親は子どもに過度な期待をかけることが知られており, 子どもの学業の成功への期待は他の国より高いことが示されている (Zhou, 2013)。子どもの学業的な成功は父母の「愛情」の表しであると認識されている (Chao, 1994)。特に, 近年では, 「虎妈 (タイガーマザー)」, 「鸡娃 (チーワー, 過度な教育競争)」, 「不要让孩 子输在起跑线上 (子どもをスタートラインで負けさせない)」などの言葉が世間に広まっている。親は親自身が設定する目標を達成するように子どもにプレッシャーをかけ, 一人っ子の親たちは特に, 幼少期から子どもの教育や将来のキャリアに多大な投資を行う傾向がある (Zhou, 2013)。しかし, このような教育では, 親は子どもの苦手なところに注目しやすいことも報告されている (Zhou, 2013)。例えば, 中国では多くの子どもは幼少期から様々な習いごとに取り組む。他の子どもに比べ, 習得のペースが遅かったり, 成績が思わしくなかったりする子どもに対して, 親は不安を抱えやすく, 専門機関に相談する傾向が高まる。在日中国人の親の場合も, 学力の激しい競争社会の影響で親は子どもの学力に期待が大きいことから, 専門機関により繋がりがやすく, 神経発達症の気づきが早まると考えられる。激しい競争社会という文化の影響を受けた在日中国人の親にとって, 専門機関へのアクセスのハードルを下げるための言語面などの支援は, 子どもの障害への気づきを促す上で有効であると考えられる。

(6) 大家族の育児文化の影響

親のみの育児形態は, 在日中国人の子どもの言語発達の異常の気づきを妨げていることが明らかになった。特に「留守児童文化」が盛んでいる時代に育てられた親らは, 大家族の育児形態の影響を強く受けたため, 子どもの言語発達において言語環境の重要性を強く感じていると思われる。本研究でも, 在日中国人の親は, 子どもに関わっている人数や言

語の環境の複雑さ（方言及び外国語）が、子どもの言語発達に大きく影響すると信じていることが分かった。同様に、De Houwer(2009)は子どもが複数の言語環境に置かれている場合、親は子どもの言語発達の遅れに気づいても、発達の異常ではなく、複数の言語習得の固有の困難さによるものに帰属しやすい傾向があることを指摘した。在日中国人の子どもは中国の親戚から遠く離れており、その上、親の交友関係及び親子の言語能力で、日本人との接触機会も限られている子は少なくないことも推察される（川崎・麻原, 2012）。また、家族内に使用する方言や英語などのその他の外国語の使用による言語発達の一時の遅れも指摘されている（Pearson et al., 1993）。在日中国人の場合、核家族の育児が多く、家庭内や国内の親戚との交流において方言の使用率も高いである。それらの原因で、在日中国人の親はより言語環境に帰属しやすく、障害の気づきを遅らせたことが推測される。

(7) 教師の意見への尊重の影響

在日中国人にとって、神経発達症のある子どもの障害の気づきにおいて、教師の意見はその気づきを促進する場合もあれば、阻害する場合もあると考えられる。中国の文化では、親と教師は協力しあって子どもを育てていくのではなく、教師は知識などの教育を担当し、親は学校以外での場面を担当することが多いため、中国の教師は専門家として尊重されており、親は礼儀正しく控えめに接することが指摘されている（Smith et al., 2023）。親は教師の補助として位置付けられており、教師に強く頼っていることが指摘されている（Guo & Kilderry, 2018）。本研究でも、教師が子どもに発達検査や知能検査を受けるように勧めた場合、親は素早く対応する傾向が見られた。

一方、保育園や学校の教師から特に指摘がない場合、中国人の親が子どもの発達の異常に気づいても、それを神経発達症と結びつけにくいことも見られた。日本では、教師や保育園の職員は、子どもの問題について確信が持てなかったり、親が十分に理解していなかったりするため、自分の懸念を親と共有しにくいという課題があることが指摘されている（Honda et al., 2023）。特に外国人の親の場合、言語や文化などの影響もあり、より一層その懸念が伝わりにくいことが想像される。特に中国の文化の影響下で中国人の親は教師から指摘がない場合、特に問題ないだろうと考えやすく、子どもの神経発達症の気づきを遅らせたと考えられる。以上より、在日中国人の親にとっては、学校との連携を強めることが重要であると言えるであろう。

(8) 課題

子どもの発達には性差が存在することは既に知られており、特定の文化においてその傾向が特に強調されている（Hofstede, 2001）。また女兒のASDのカモフラージュが男児より有意に強くみられることが指摘されている（Dean, Harwood, & Kasari, 2022）。本研究の対象児では、女兒に比べて男児が圧倒的に多かったため、今後は異文化の環境下、中国人の女兒の神経発達症への気づきに対し、中国文化がどのように影響しているのかを検討する必要がある。また、子どもの神経発達症への気づきについては、父母間で意見が異なる可能性がある。本研究の協力者は全員母親であったため、今後は父親の視点から子どもの神経発達症への気づきを検討する必要があると考えられる。加えて、今回の協力者の多くは、障害の気づきが比較的早く、発達の遅れが目立たない子どもの障害の気づきの実態を明らかにする必要がある。最後に、日本人および中国以外の外国人の比較を通じて、より在日中国人の特徴を示すことができるように研究を行う必要があると考えられる。

謝辞

本研究を実施するにあたり、本調査にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

注：

1. 本研究では、子どもの神経発達症への気づきに影響を与える要因を検討することを目的としていたため、気づきから診断に至るまでの過程における影響要因は扱わなかった。
2. アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境（総務省, 2019）。
3. ソーシャルメディアを利用する際、自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見をSNSで発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を、閉じた小部屋で音が反響する物理現象にたとえたもの（総務省, 2019）。
4. 「貴人語遅」は『論語』に由来し、原文は「貴人語遅、敏于行却不訥于言、泰山崩于前而色不变、麋鹿興于左而目不瞬」である。これは「君子は行動は素早い、言葉は慎重であり、大事が起こっても動じない」という意味を強調する。しかし、現代社会では「貴人語遅」はしばしば誤解され、「子どもの言葉が遅いのは賢さの表

れであり、将来成功する兆しだ」と解釈されることがある。

5. 「息子を好む親の傾向」, 「男尊女卑」のような中国の伝統文化の影響で、男の子と女の子の成長には異なる期待が持たれており、教育方法も異なっている点がある (Meng et al., 2024)。一般に、男の子は幼少期にやんちゃで言葉が遅く、女の子は早く成熟し言語能力が高いと考えられがちである。この固定観念が「男の子の発育は遅い」という誤解を長く広めている。
 6. 中国の伝統的な価値観を表す成語で、「息子には龍のように立派になってほしい、娘には鳳凰のように優れた存在になってほしい」という意味である。
- 引用文献**
- American Psychiatric Association. (2022). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders (5th ed., text rev.; DSM-5-TR)*. American Psychiatric Publishing.
- Chao, R. K. (1994). Beyond parental control and authoritarian parenting style: Understanding Chinese parenting through the cultural notion of training. *Child development, 65*(4), 1111-1119.
- De Houwer, A. (2009). *Bilingual First Language Acquisition*. Multilingual Matter.
- Dean, M., Harwood, R., & Kasari, C. (2017). The art of camouflage: Gender differences in the social behaviors of girls and boys with autism spectrum disorder. *Autism, 21*(6), 678-689.
- Fitriani, I. S., & Oktobriariani, R. R. (2017). Stimulasi, Deteksi dan Intervensi Dini Orang Tua terhadap Pencegahan Penyimpangan Pertumbuhan dan Perkembangan Anak Balita. *Indonesian Journal for Health Sciences, 1*(1), 1-9.
- 藤川純子・田邊正明. (2021). 発達障害児を育てる外国人保護者に対する支援の研究 (1) —南米出身保護者へのインタビューからの考察—. *三重大学教育学部研究紀要*, 72, 489-504.
- 郷間英世・田中駿・清水里美・足立絵美. (2022). 現代の子ども達の発達の様相と変化新版 K 式発達検査 1983 と 2020 の標準化資料の比較から. *発達支援学研究*, 2(2), 99-114.
- Guo, K., & Kilderry, A. (2018). Teacher accounts of parent involvement in children's education in China. *Teaching and Teacher Education, 69*, 95-103.
- Guo, Z., Cui, D., Bao, J., Shi, W., Wei, K., Yang, G. X., & Yu, W. (2025). The Influence of Family Cognitive Environment on Early Childhood Language Development: A Retrospective Case-control Study in Shanghai. *Chinese General Practice, 28*(1), 53-58.
- Harwood, R. L., Schoelmerich, A., Schulze, P. A., & Gonzalez, Z. (1999). Cultural differences in maternal beliefs and behaviors: A study of middle-class Anglo and Puerto Rican mother-infant pairs in four everyday situations. *Child development, 70*(4), 1005-1016.
- Hofstede, G. (2001). *Culture's Consequences: Comparing Values, Behaviors, Institutions and Organizations across Nations*. Sage.
- Honda, H., Sasayama, D., Niimi, T., Shimizu, A., Toibana, Y., Kuge, R., ... Nishigaki, A. (2023). Awareness of children's developmental problems and sharing of concerns with parents by preschool teachers and childcare workers: The Japanese context. *Child: Care, Health and Development, 50*(1), Article e13153. <https://doi.org/10.1111/cch.13153>
- Jiang, Y., & Bi, D. (2020). The Education Status of Rural Left-behind Children in Minority Areas: Take H Township of Chuxiong Yi Autonomous Prefecture in Yunnan Province as an Example. *Journal of Yunnan Agricultural University (Social Science), 14*(4), 54-59.
- 川崎千恵・麻原きよみ. (2012). 在日中国人女性の異文化における育児経験—困難と対処のプロセス—. *日本看護科学会誌*, 32(4), 52-62.
- Khanlou, N., Haque, N., Mustafa, N., Vazquez, L. M., Mantini, A., & Weiss, J. (2017). Access barriers to services by immigrant mothers of children with autism in Canada. *International Journal of Mental Health and Addiction, 15*, 239-259.
- 小森和子・玉岡賀津雄・近藤安月子. (2008). 中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理—同形類義語と同形異義語を対象に—. *日本語科学*, 23, 81-94.
- Lim, N., O'Reilly, M., Sigafos, J., Lancioni, G. E., & Sanchez, N. J. (2021). A review of barriers experienced by immigrant parents of children with autism when accessing services. *Review Journal of Autism and Developmental Disorders, 8*, 366-372.
- 林 恵. (2002a). 字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策—台湾人日本語学習者を中心に—. *日本語教育*, 112, 45-54.
- Lord, C., Rutter, M., DiLavore, P. C., & Risi, S. (1999).

- Autism Diagnostic Observation Schedule-WPS Edition*. Western Psychological Services.
- Matsumoto, D., & Hwang, H. S. (Eds). (2001). *The handbook of culture and psychology*. Oxford University Press.
- 松山光生・首藤郁子・倉内紀子. (2023). N式得手不得手チェックシートの結果を保護者にフィードバックする方法—保育コンサルテーションの視点から. *九州保険福祉大学研究紀要*, 24, 1-6.
- Meng, F., Cheng, C., Xie, Y., Ying, H., & Cui, X. (2024). Perceived parental warmth attenuates the link between perceived parental rejection and rumination in Chinese early adolescents: two conditional moderation models. *Frontiers in Psychiatry*, 15, Article e1294291. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38328760/>
- Norbury, C. F., & Sparks, A. (2013). Difference or disorder? Cultural issues in understanding neurodevelopmental disorders. *Developmental psychology*, 49(1), 45-58.
- 野澤純子・藤後悦子・石田祥代. (2023). 外国人幼児の障害の早期発見：担当保育者による障害の特徴への気づきに着目して. *國學院大學人間開発学研究*, 14, 45-55.
- Pariser, E. (2011). *The filter bubble: How the new personalized web is changing what we read and how we think*. Penguin Publishing Group.
- Pearson, B. Z., Fernández, S. C., & Oller, D. K. (1993). Lexical development in bilingual infants and toddlers: Comparison to monolingual norms. *Language learning*, 43(1), 93-120.
- Sakai, C., Mulé, C., LeClair, A., Chang, F., Sliwinski, S., Yau, Y., & Freund, K. M. (2019). Parent and provider perspectives on the diagnosis and management of autism in a Chinese immigrant population. *Journal of Developmental & Behavioral Pediatrics*, 40 (4), 257-265.
- Smith, J., Rabba, A. S., Cong, L., Datta, P., Dresens, E., Hall, G., ... Pellicano, E. (2023). "They Were Saying That I Was a Typical Chinese Mum": Chinese Parents' Experiences of Parent-Teacher Partnerships for Their Autistic Children. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 53 (12), 4888-4900.
- 総務省. (2019). 令和元年版情報収集通信白書. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaems/30/2/30_69/_pdf/-char/ja
- Sun, X., Allison, C., Auyeung, B., Matthews, F. E., Baron-Cohen, S., & Brayne, C. (2013). Service provision for autism in mainland China: Preliminary mapping of service pathways. *Social Science & Medicine*, 98, 87-94.
- Sun, Y., & Jiang, N. (2017). The effect of grandparents' co-parenting on young children's personality and adaptation: Chinese three-generation families. *Asian Social Science*, 13(5), 7-15.
- 出入国在留管理庁. (2024). 令和6年6月末現在における在留外国人数について. https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00052.html
- 鈴木良美・森山ますみ・五味麻美・持田恵理. (2018). 発達障害を有する外国人小児への保健師による早期発見・支援とその困難—親の国籍による比較—. *日本公衆衛生看護学会誌*, 7 (2), 72-79.
- 鈴木崇之・嶋崎博嗣・朱彤. (2019). 在日中国人家庭の育児形態と子育て支援ニーズに関する一考察—2005年調査と2016年調査の比較検討から—. *ライフデザイン学研究*, 14, 21-53.
- Tews, L., & Merali, N. (2008). Helping Chinese parents understand and support children with learning disabilities. *Professional Psychology: Research and Practice*, 39 (2), 137-144.
- 豊田市子ども発達センター・豊田市福祉事業団. (2008). 『豊田市における外国人障がい児の現状と課題に関する調査報告書』. <https://www.fukushijigyodan.toyota.aichi.jp/web/wp-content/uploads/2021/03/gaikokujin.pdf>
- 土屋雅子. (2021). テーマティック・アナリシス法：インタビューデータ分析のためのコーディングの基礎. ナカニシヤ出版.
- Wang, H. T., & West, E. A. (2016). Asian American Immigrant Parents Supporting Children with Autism: Perceptions of Fathers and Mothers. *International Journal of Whole Schooling*, 12(1), 1-21.
- Wang, W., Wu, Y. C. J., Yuan, C. H., Xiong, H., & Liu, W. J. (2017). Use of social media in uncovering information services for people with disabilities in China. *International Review of Research in Open and Distributed Learning*, 18(1), 65-83.
- Wei, H., Li, Y., Zhang, Y., Luo, J., Wang, S., Dong, Q., ... Cheng, Q. (2022). Awareness and knowledge of autism spectrum disorder in Western China: promoting early identification and intervention. *Front Psychiatry*, 13, Article e970611. <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36440386/>
- Wong, P. P., Wai, V. C., Chan, R. W., Leung, C. N., & Leung, P. W. (2021). Autism-Spectrum Quotient-Child and Autism-Spectrum Quotient-

Adolescent in Chinese population: Screening autism spectrum disorder against attention-deficit/hyperactivity disorder and typically developing peers. *Autism*, 25(7), 1913-1923.

Yu, L., Stronach, S., & Harrison, A. J. (2020). Public knowledge and stigma of autism spectrum disorder: Comparing China with the United States. *Autism*, 24(6), 1531-1545.

Zhang, H., & Chen, C. (2024). A systematic review: Factors related to culturally and linguistically diverse minority parents' service decisions for their children with autism spectrum disorder. *Review Journal of Autism and Developmental Disorders*, 1-18. <https://doi.org/10.1007/s40489-024-00431-8>

Zhang, J., Wheeler, J. J., & Richey, D. (2006). Cultural validity in assessment instruments for children with autism from a Chinese cultural perspective. *International Journal of Special Education*, 21, 109-113.

Zhou, G. (2013). What are Chinese immigrant parents' concerns with their children's education?. *Ryerson Centre for Immigration and Settlement Working Paper*, 4, 1-18.

周萌・宋協毅. (2012). 中日両国語における推量表現に関する一考察. *일어일문학연구*, 80(1), 421-437.